新宿グランドターミナル・デザインポリシー 2021

２０２１年１１月
新宿の拠点再整備検討委員会

Designed by Yoshioka Yuta

はじめに

宿場町「内藤新宿」から発展し商業で賑わう新宿駅東口地区、戦後いち早く立ち上がり様々な娯楽施設が集積する歌舞伎町地区、1964年の東京オリンピック後に浄水場跡地が開発され高層ビルが立ち並ぶ西新宿、近年の国鉄跡地の開発によって生まれた新宿駅南口周辺、そして約58haに及ぶ緑の広がりのある新宿御苑や憩いと賑わいの場である新宿中央公園など、特徴が異なる様々な要素で構成されている巨大な街、それが「新宿」です。

そして、その中心に位置するのが一日約350万人の乗降客数を誇る「世界一のターミナル」新宿駅、この新宿駅の改良と共に建設された駅ビルは、それから約半世紀が過ぎ、いよいよ機能更新の時期を迎えています。

そこで、東京都と新宿区は、新宿駅周辺地域のまちづくりの方向性について「新宿の新たなまちづくり～2040年代の新宿の拠点づくり～」（2017年６月）を、また、先行して再編を行う新宿駅直近地区のまちづくりについて、「新宿の拠点再整備方針～新宿グランドターミナルの一体的な再編～」（2018年３月）を策定しました。再整備方針では「交流・連携・挑戦」をテーマに駅、駅前広場、駅ビル等を一体的に再編する方針を示しています。

本デザインポリシーは、「新宿の拠点再整備方針」を具現化する空間づくり・景観づくりに関して、行政と事業者等が連携して取り組むべき内容をとりまとめたものです。

新宿グランドターミナルとして一体的に再編するため、東西骨格軸、セントラルプラザ、コリドー、グランドシャフトを有機的につなげるとともに、新たな活動と価値を持続的に創出する場として整備していくことを示しています。

今後も新宿グランドターミナルの再編の進捗に合わせて本デザインポリシーを更新し、新宿の個性を現わす空間・景観のつくり方を示していきます。

本デザインポリシーが有効に活用されて、次の「より魅力的な世界の新宿」が創造されることを期待しています。

新宿の拠点再整備検討委員会　会長
デザイン検討部会　座長

岸井　隆幸

ー 目 次 ー

Ⅰ　2040年代の新宿の拠点づくり　・・・・・　1

Ⅱ　新宿の拠点再整備方針の具体化に向けた本デザインポリシーの目的　・・・・・　2

Ⅲ　新宿駅周辺の個性　・・・・・　4

Ⅳ　グランドターミナルの役割　・・・・・　6

Ⅴ　グランドターミナルの空間・景観つくり方　・・・・・　7

Ⅵ　「交流・連携・挑戦が生まれる場所」となる空間　・・・・・　8

Ⅶ　新宿の多様な個性を活かした新たな景観　・・・・・　20

Ⅷ　段階的なグランドターミナルの再編に向けて　・・・・・　23

Ⅰ　2040年代の新宿の拠点づくり

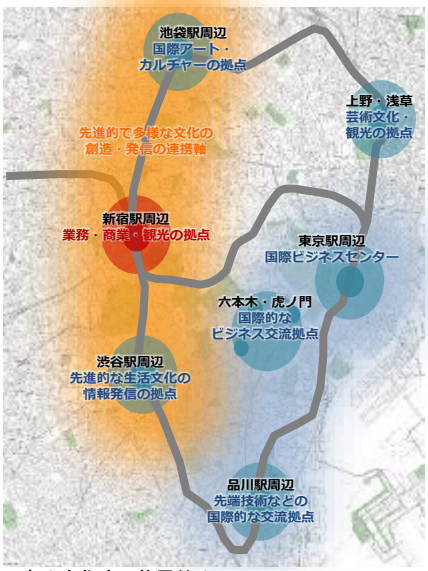
■新宿の新たなまちづくり~2040年代の新宿の拠点づくり~（平成29（2017）年６月 東京都・新宿区）

拠点再編への取組

■東京における新宿の役割

○東京中心部における業務・商業・観光の拠点

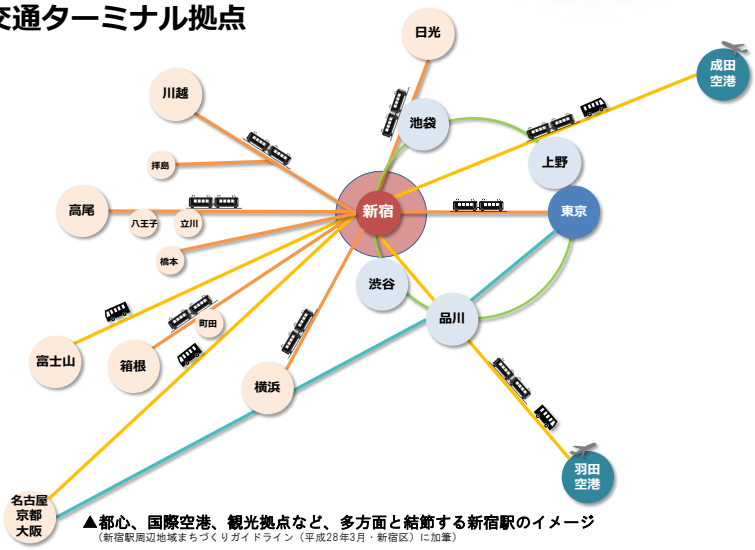
- 東京駅周辺、六本木・虎ノ門、品川駅周辺等は、金融や新産業、新技術等を核としたビジネス拠点として機能更新が進んでいる。
- 渋谷駅周辺、池袋駅周辺等は、先進的な文化やアート・カルチャーの発信拠点として機能更新が進んでいる。
- 新宿は業務機能だけでなく、観光や商業など、様々な都市機能が古くから集積しており、近接する渋谷や池袋などと一体の拠点域として機能を発揮していくことが期待される。



▲都心各拠点の位置付け

○都内外とつながる交通ターミナル拠点

- 新宿駅は多くの鉄道やバス路線を抱える巨大ターミナルであり、都外各地区への観光拠点としても重要
- 多摩エリアの主要な駅と都心とを結節する交通ターミナルとしての拠点



▲都心、国際空港、観光拠点など、多方面と結節する新宿駅のイメージ
（新宿駅周辺地域まちづくりガイドライン（平成28年3月・新宿区）に加筆）

○成熟社会における機能更新のモデルとなる新宿

- 新宿のように、多様な機能が集積する拠点の再編は、成熟社会における機能更新のモデルとなり、東京の都市力向上に大きく寄与

新宿駅周辺地域の将来像

■2040年代を見据えた新宿駅周辺地域の将来像

国内外の人・モノ・情報が集まり、交わり、刺激し合い、
さらなる魅力や新たな価値を持続的に創出し続ける「国際交流都市・新宿」
～「交流・連携・挑戦」が生まれる人中心のまちへ～

（１）車中心のまちから人中心のまちへ

（２）多様な都市機能が近接し、連携するまち

Ⅱ　新宿の拠点再整備方針の具体化に向けた本デザインポリシーの目的

■新宿の拠点再整備方針（平成30（2018）年3月 東京都・新宿区）

【まちの特性】　多様な都市機能が高度に集積した抜群の拠点性

【ターミナルの特性】　世界一の乗降客数を誇る圧倒的な交通利便性

【まちづくりの方向性】

①世界一のターミナルにふさわしい機能の充実・強化
②駅とまち、まちとまちの回遊性向上
③国際競争力の強化に資する機能の導入
④周辺地域への展開

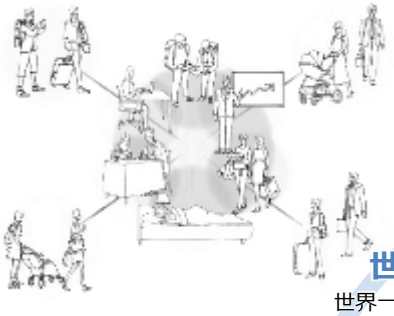
（新宿の拠点再整備方針　P3, 4より抜粋）

新宿グランドターミナルのコンセプト

Shinjuku Grand Terminal

新宿グランドターミナル

駅、駅前広場、駅ビル等が有機的に一体化した次世代のターミナル
誰にとっても優しい空間がまちとつながり、
様々な目的を持って訪れる人々の多様な活動にあふれ、
交流・連携・挑戦が生まれる場所



交流

世界一のターミナルでつながる

世界一の乗降客数を誇るターミナルが多様で魅力的な
まちの結節点となり、異業種、異文化の垣根を越えて
無限の交流を生み出す

新宿
グランドターミナル

連携

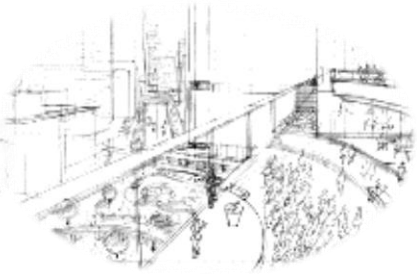
常に新しい何かに触れ合える

新宿に集まり、新宿を行き交う多種多様な
「人・文化・情報・技術」の接触が融合を生み、
連携することにより、国内外から新宿を訪れる
人々の活動の場が次々に広がる

挑戦

ビジネスも、カルチャーも、観光も
更に魅力的に、多くのニーズに応える

交流と連携が進む環境の中で
新たな価値やアイデアを発見した人々によって
イノベーションの源泉となる挑戦の場を通じて
最新の商品やサービス、文化が持続的に生み出される



（新宿拠点再整備方針　P6より抜粋）

グランドターミナルの再整備方針

交流 軸の構築

方針1 **グランドターミナルとまちを「東西骨格軸」でつなぐ**
Ⅰ．東西のまちをつなぐデッキを線路上空に新設
Ⅱ．東西骨格軸となる道路を歩行者優先の空間に再編

方針2 **グランドターミナルを一体化して整える**
Ⅰ．グランドターミナルを一体化するターミナル軸を構築し、まちとつなぐ
Ⅱ．グランドターミナルの人の流れを整える
Ⅲ．わかりやすく人に優しいグランドターミナルに整える

方針3 **人中心の広場とまちに変える**
Ⅰ．歩行者優先の駅前広場に再構成
Ⅱ．グランドターミナルへの車両流入を抑制

連携 空間の創出

方針4 **グランドターミナルの顔となるプラザ・テラスを整備する**
Ⅰ．グランドターミナルのシンボルとなる新宿セントラルプラザの整備
Ⅱ．デッキから地下までを結ぶ新宿テラス（East・West・North）の整備
Ⅲ．新宿テラスからまちの各所に視線が抜ける空間（新宿View）を確保

方針5 **グランドターミナルに新たな機能を誘導・導入する空間を創出する**
Ⅰ．新宿セントラルプラザに公益的な活動交流空間（新宿ラボ）を創出
Ⅱ．新宿テラスに鉄道沿線の多様な機能を融合する空間（地域連携ラボ）を創出
Ⅲ．グランドターミナルに訪れる人々が触れ合えるショールーム空間を創出
Ⅳ．安心して過ごせる空間の確保

方針6 **グランドターミナルの各所に人が佇みたくなる空間とみどりを創る**
Ⅰ．駅がわかるエントランスの創出
Ⅱ．交流軸やエントランスに沿って連携空間を創出
Ⅲ．新宿中央公園と新宿御苑を結びつけるみどりの塊をグランドターミナルの各所に創出

持続的な発展への挑戦

方針7 **新宿のレガシーを継承しながら、新たな景観を生み出す**
Ⅰ．西口立体広場のボイド等を継承・発展し、グランドターミナルからまち全体に展開
Ⅱ．新宿セントラルプラザや駅前広場に面して、交流・連携・挑戦を感じさせる設えを用意
Ⅲ．遠方から視認できる、新宿らしいスカイラインの形成

方針8 **誰もがチャレンジできる環境を用意する**
Ⅰ．訪れる人々に多様な活動やサービスを提供するラボ機能の導入
Ⅱ．オールラウンドに発信を行える多様性を持ったショールーム機能の導入
Ⅲ．消費者と直接結び付き、新たな価値を生み出すイノベーション機能の強化
Ⅳ．人々を新宿に集め続け新たな発信が行われる、国際競争力強化に資する機能の導入
Ⅴ．チャレンジャーを生み出し続ける環境づくり

方針9 **次世代の技術導入の可能性に果敢に挑戦する**
Ⅰ．次世代モビリティシステムへの対応
Ⅱ．エネルギー地域制御への対応
（エネルギーの多重な面的利用の拡大・連携強化と計画的更新）
Ⅲ．新技術を活用した災害時の対応

方針10 **新宿全体の挑戦に結び付ける**
Ⅰ．グランドターミナル周辺の段階的な機能更新につなげる
Ⅱ．新宿全体の価値向上につながる、持続可能なエリアマネジメントの推進

グランドターミナルの再編イメージ

（新宿の拠点再整備方針　P8, 9より抜粋）

交流軸の構築：グランドターミナルをまちと結びつけ、交流を生む歩行者中心のネットワークを構築

連携空間の創出：交流軸の周辺に、新たなビジネス・文化・技術等の連携や多様なまちとの連携を促し、賑わいを生む空間を創出

持続的な発展への挑戦：新たな挑戦を絶えず生み出し、新宿全体の挑戦につなげる都市機能の積極的な導入

（新宿の拠点再整備方針　P7より抜粋）

■本デザインポリシーの目的

新宿の拠点再整備方針の具体化に向け、新宿グランドターミナルの空間・景観のつくり方を以下の視点に沿って示す。

視点１　「交流・連携・挑戦が生まれる場所」となる空間のつくり方

視点２　新宿の多様な個性を活かした新たな景観のつくり方

Ⅲ　新宿駅周辺の個性

■新宿駅周辺の骨組

・新宿駅を中心に、周辺にも鉄道駅が位置している。
・東西に主要な幹線道路が通り、南北に鉄道が通っている。
・東西にまとまったみどりがある。
・新宿駅周辺は、周囲のまちに比べ、高い位置にある。

「国土地理院撮影の空中写真（2009年撮影）」を基に作成

■特徴のある新宿駅西口駅前広場

・新宿駅西口駅前広場は、新宿副都心計画の要として1966年に完成した。
・地下１階中央上部を大きく開口させ、地下に自然光線を取り入れ、地上地下一体となった駅前広場である。

新宿駅西口駅前広場

■多様なアクティビティが展開されるまち

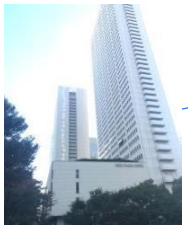
思い出横丁

西口駅前広場

地下に自然光を取り入れ、地上地下が一体となった立体広場

野外映画会（新宿中央公園）

憩い・賑わいとしてのみどり



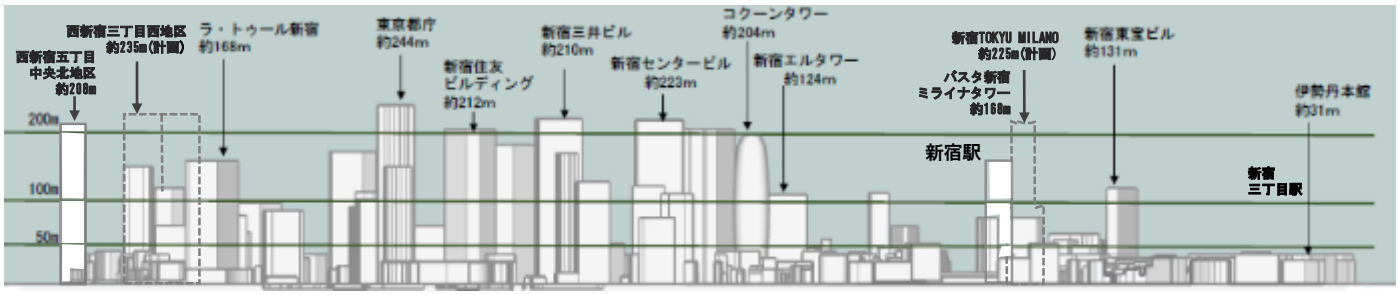
新宿駅周辺のホテル群

特徴的な超高層ビル群

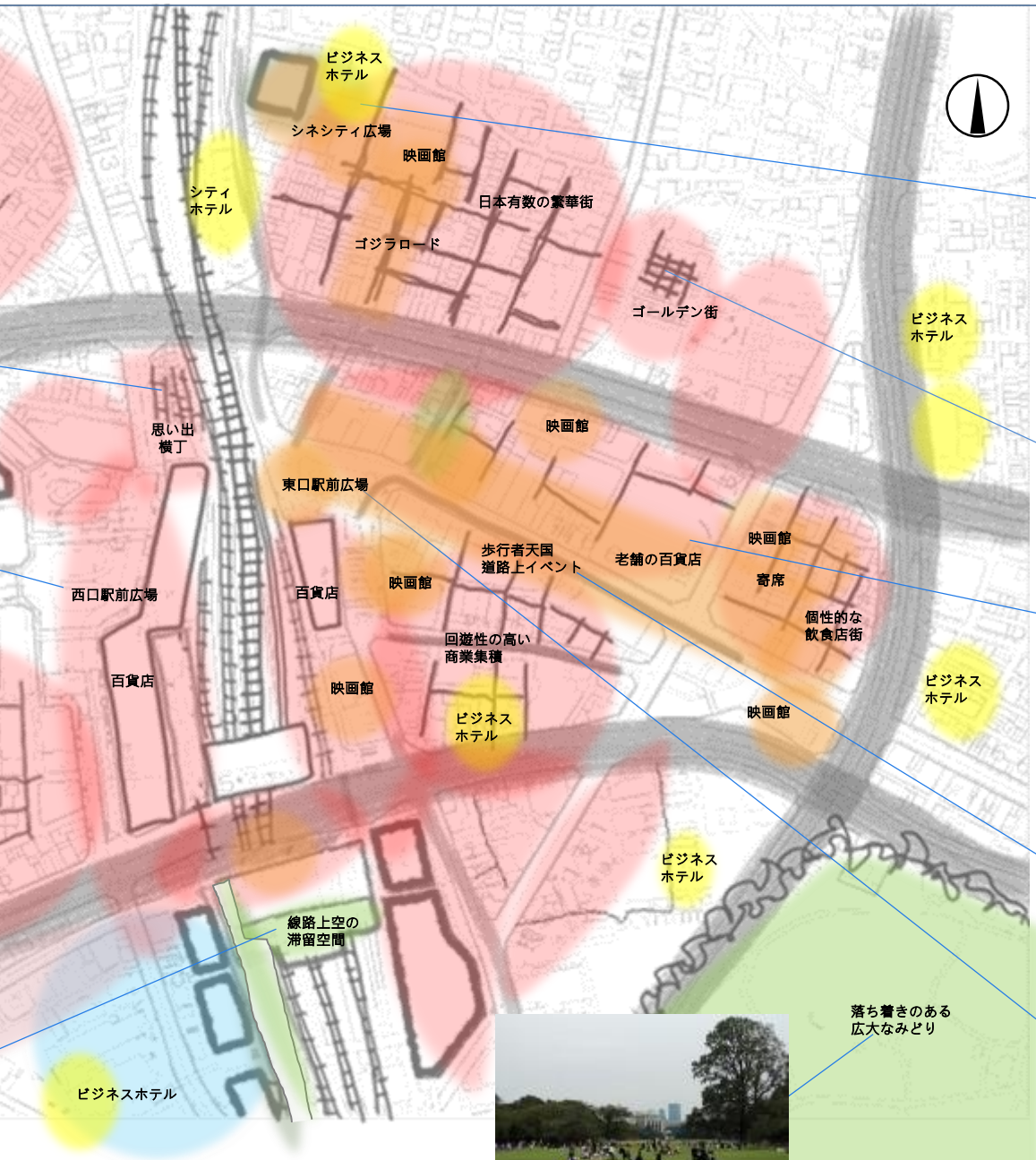
屋外テラス（バスタ新宿）

■特徴的な超高層ビル群

・新宿駅西口側に特徴的な超高層ビル群が広がっている。



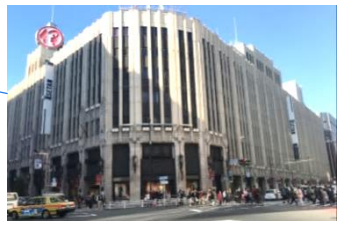
第５回新宿の拠点再整備検討委員会 資料「新宿駅周辺の現状と課題」P41から抜粋・一部加筆



シネシティ広場

広場を核とした賑わい創出と情報発信

ゴールデン街



老舗の百貨店

イベント（新宿通り）

東口駅前広場

まちの賑わいが溢れ出す広場

落ち着きのある広大なみどり（新宿御苑）

憩い・観光としてのみどり

■グランドターミナルの役割

新宿は

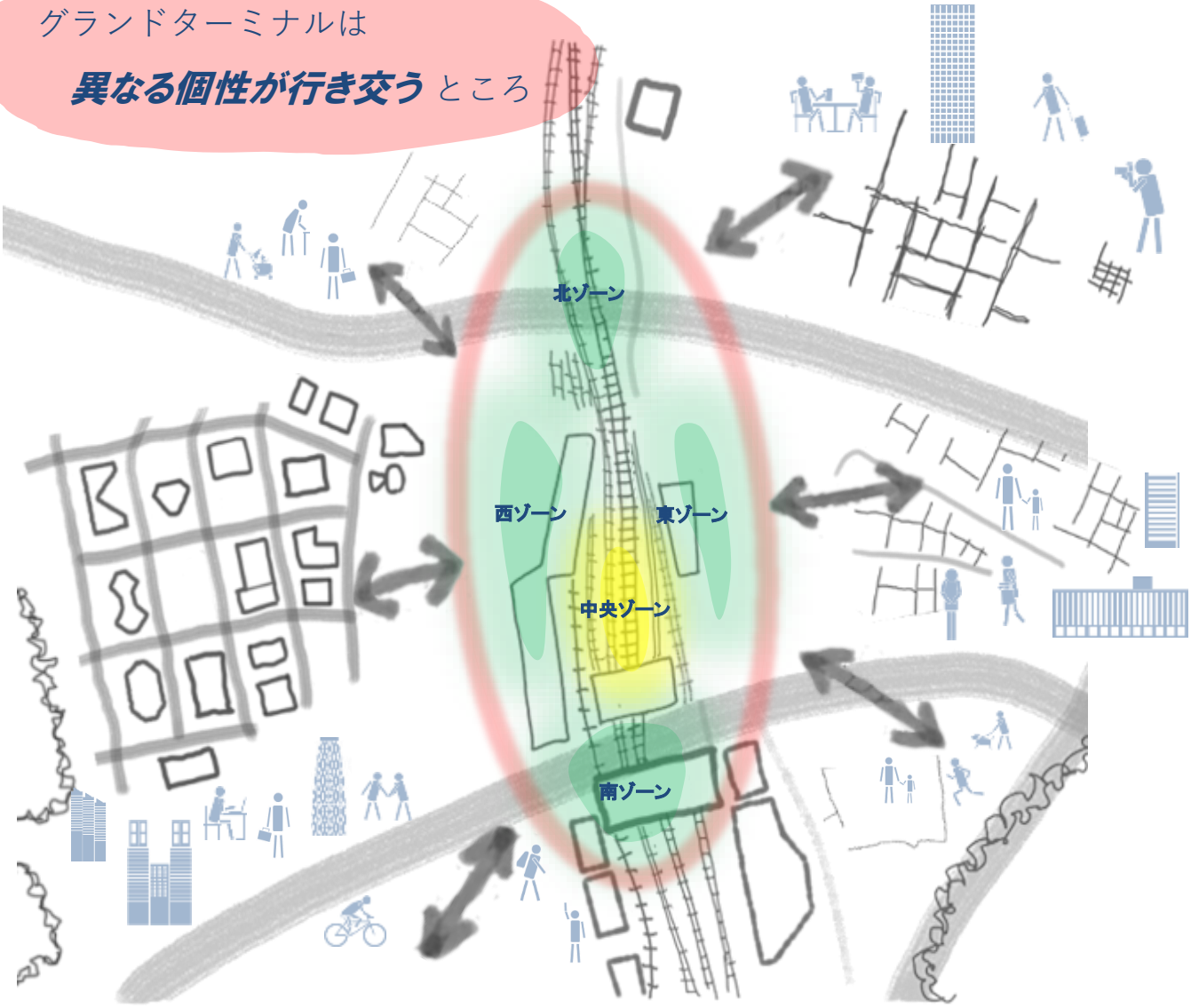
異なる個性が活きる まち

■新宿の個性

多様な人・幅広い世代の集積　／　多様な都市活動
立体的な駅前広場　／　多様な選択肢のある歩行者ネットワーク
通りと広場がつくる回遊性・界隈性　／　複数の公共交通機関
まとまったみどり　／　特徴的な超高層ビル群

グランドターミナルは

異なる個性が行き交う ところ



駅前広場とテラスは

異なる個性が出会う ところ

その交点となるセントラルプラザは

異なる個性が集う ところ

異なる個性が集まり、交わり、刺激し合い 、
さらなる魅力や新たな価値を持続的に創出し続ける場所

■デザインポリシー

人びとが集う広場を中心につくる新宿グランドターミナル

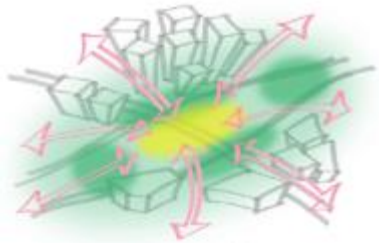
視点１　「交流・連携・挑戦が生まれる場所」となる空間のつくり方

異なる個性を持つ人・モノ・情報をひきつける魅力と価値のある空間をつくる

交流～つなぐ～

世界一のターミナルでつながる

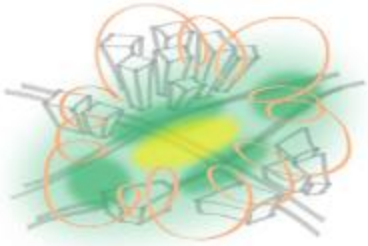
まちとまちをつなぐ
まちと駅をつなぐ
駅と駅をつなぐ
賑わいやアクティビティをつなぐ



連携～触れ合う～

常に新しい何かに触れ合える

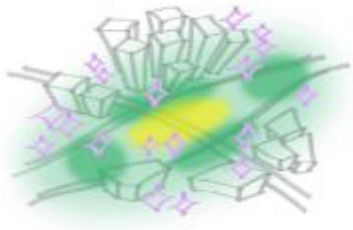
一体的に使える
いつでも誰でも使える
安全に安心して使える
まちや駅が見える



挑戦～生む～

更に魅力的に、多くのニーズに応える

新たな拠点を生む
新たな空間を生む
新たな活動を生む
新たな価値を生む



グランドターミナルの再整備方針

- 方針1　グランドターミナルとまちを「東西骨格軸」でつなぐ
- 方針2　グランドターミナルを一体化して整える
- 方針3　人中心の広場とまちに変える
- 方針4　グランドターミナルの顔となるプラザ・テラスを整備する
- 方針5　グランドターミナルに新たな機能を誘導・導入する空間を創出する
- 方針6　グランドターミナルの各所に人が佇みたくなる空間とみどりを創る
- 方針7　新宿のレガシーを継承しながら、新たな景観を生み出す
- 方針8　誰もがチャレンジできる環境を用意する
- 方針9　次世代の技術導入の可能性に果敢に挑戦する
- 方針10　新宿全体の挑戦に結び付ける

視点２　新宿の多様な個性を活かした新たな景観のつくり方

異なる個性を持つ人・モノ・情報を活かした一体的な景観をつくる

形態・意匠～魅せる～

まちの個性と人の活動を表出させる
個性が一体となった拠点としてみせる
夜間もまちの個性を演出する

みどり・環境～安らぐ～

象徴的なみどりをつなぐ
一体的なみどりをつくる
新しい環境技術をいかす

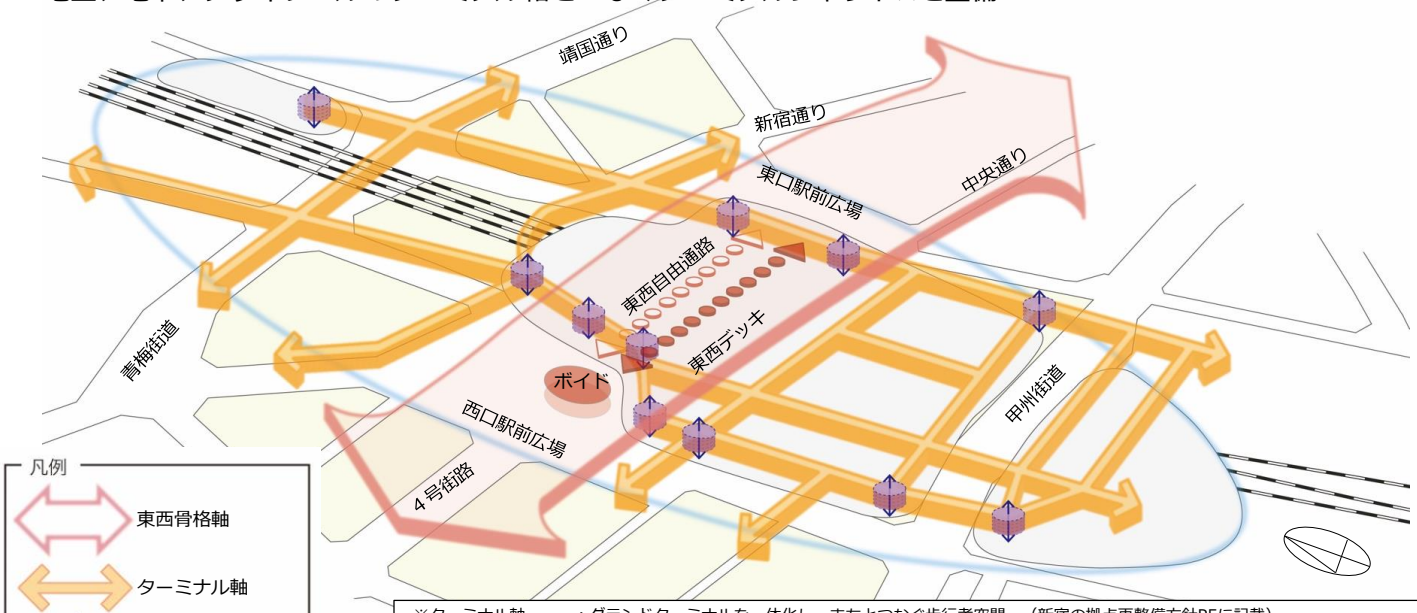
グランドターミナルの再整備方針

- 方針7　新宿のレガシーを継承しながら、新たな景観を生み出す
- 方針6　グランドターミナルの各所に人が佇みたくなる空間とみどりを創る
- 方針9　次世代の技術導入の可能性に果敢に挑戦する

交流~つなぐ~

グランドターミナルをまちと結びつけ、交流を生む歩行者中心のネットワーク

・グランドターミナルを介して東西のまちとみどりをつなぐ歩行者中心の空間として東西骨格軸（東西デッキ、東西自由通路）を整備
・グランドターミナルを一体化し、駅とまち、まちとまちをつなぐターミナル軸※を整備
・地上、地下、デッキレベルのターミナル軸をつなぐターミナルシャフト※を整備

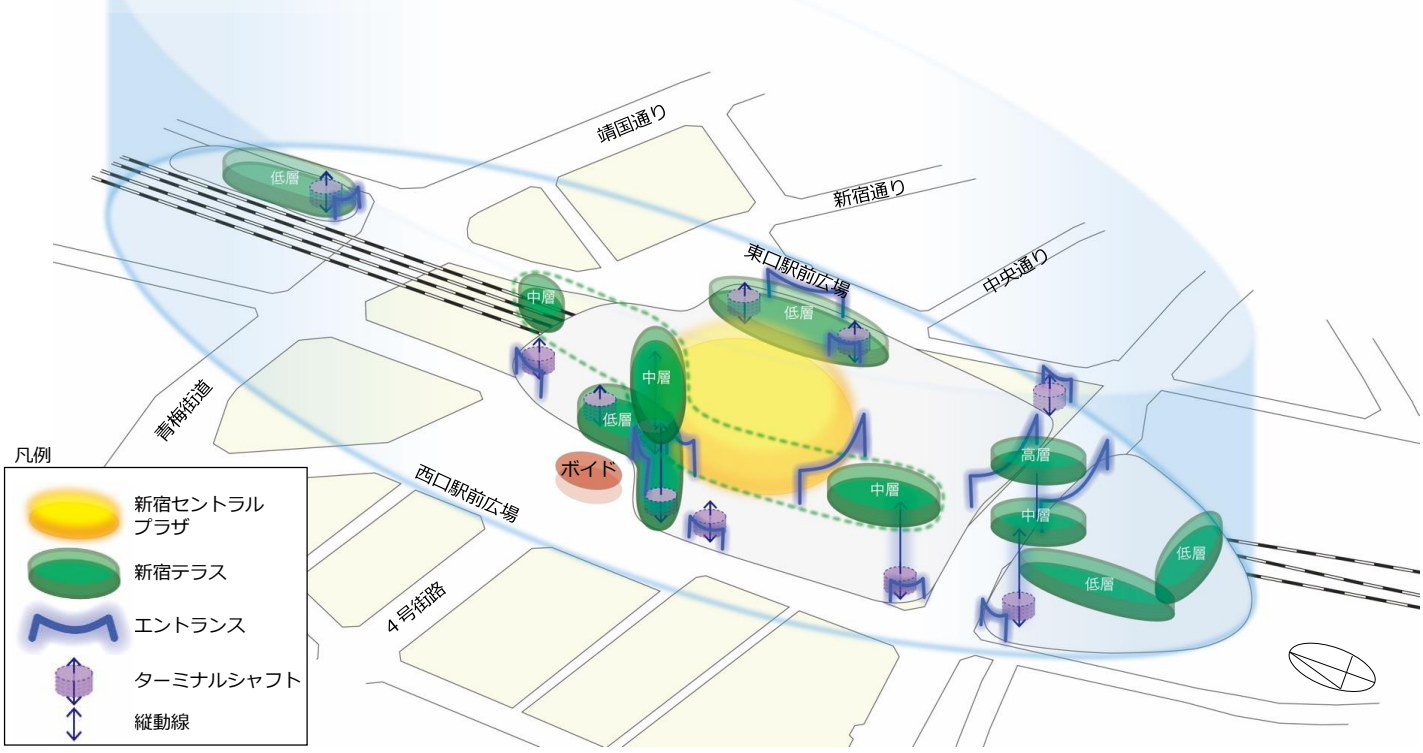


※ターミナル軸　　：グランドターミナルを一体化し、まちとつなぐ歩行者空間。（新宿の拠点再整備方針P5に記載）
※ターミナルシャフト：地上・地下・デッキレベルのターミナル軸をつなぐバリアフリーの縦動線。
駅改札近くに設置されることで、駅からまちへの移動や乗換経路だけでなく、まちの回遊動線としても利用される。
（新宿の拠点再整備方針P11に記載）

連携~触れ合う~

新たなビジネス・文化・技術等の連携や多様なまちとの連携を促し、賑わいを生む空間

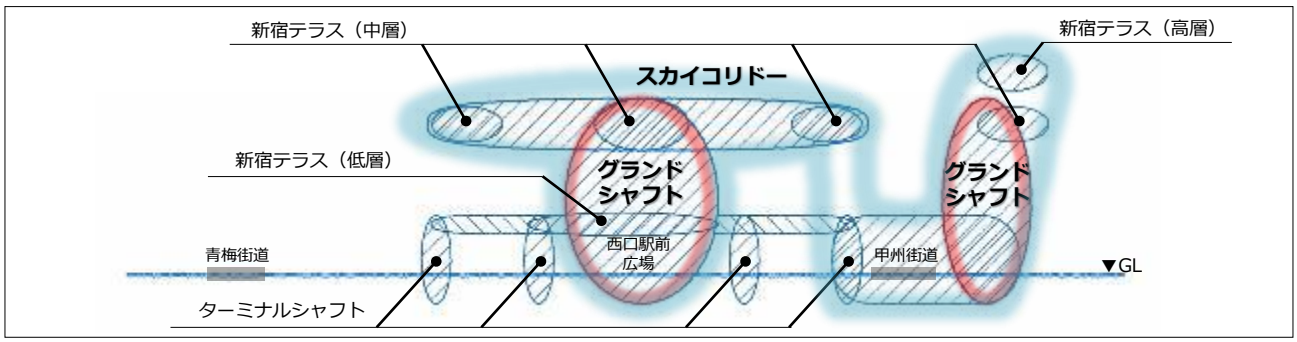
・グランドターミナルの核となる新宿セントラルプラザを線路上空に整備
・グランドターミナルの顔となる新宿テラスをセントラルプラザを囲むように整備
・人の動きが立体的に感じられ、周辺から駅の位置が視認できるエントランスを整備



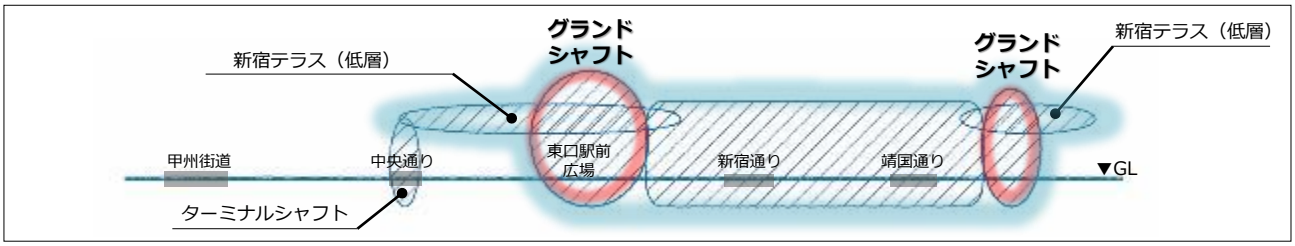
挑戦~生む~

新たな挑戦を絶えず生み出し、新宿全体の挑戦につなげる

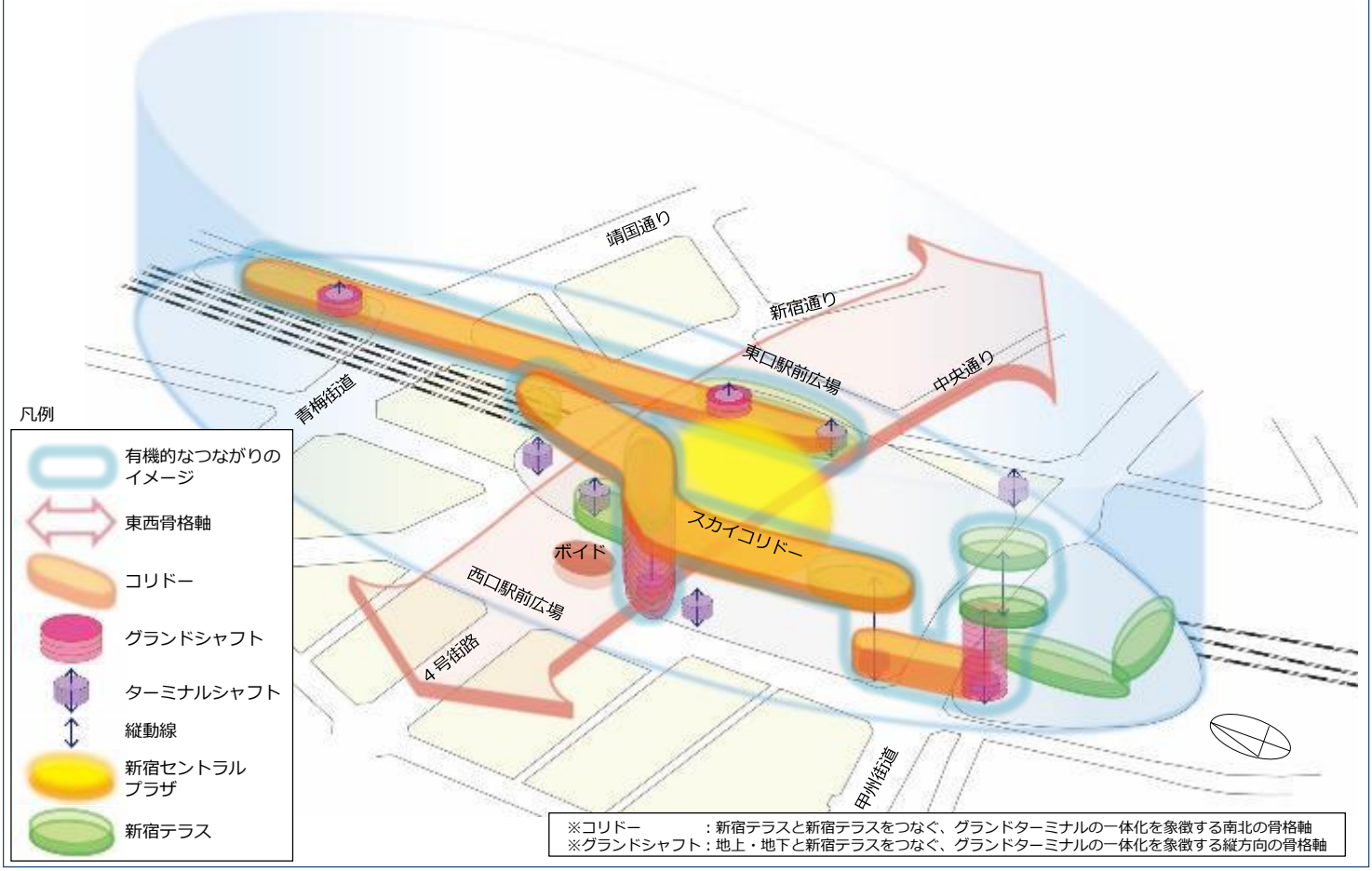
・新宿テラスを相互につなぐコリドー※を整備
・まちと新宿テラスをつなぐグランドシャフト※を整備
・グランドターミナルとして一体的に再編するため、東西骨格軸、セントラルプラザ、コリドー、グランドシャフトを有機的につなげるとともに、新たな活動と価値を持続的に創出する場として整備



西から新宿グランドターミナルを見たイメージ



東から新宿グランドターミナルを見たイメージ



※コリドー　　：新宿テラスと新宿テラスをつなぐ、グランドターミナルの一体化を象徴する南北の骨格軸
※グランドシャフト：地上・地下と新宿テラスをつなぐ、グランドターミナルの一体化を象徴する縦方向の骨格軸

これはイメージであり、詳細については、今後、デザイン討部会を通じて、引き続き検討・調整を行う。

【中央ゾーン】

■デザインポリシー

新たな挑戦を持続的に生み出す「セントラルプラザ」をつくる

■現状

○南北に走る鉄道とホーム等の駅施設で構成させる鉄道用地となっている。

○周囲は、北側を除き駅ビル等で囲まれており、まちからほとんど見ることができない空間となっている。

■「交流・連携・挑戦の生まれる場所」となる空間のつくり方

交流

東西骨格軸から南北につながる広場をつくる～まちとまちをつなぐ～

○周辺のまちと駅施設がみえる広場空間

・セントラルプラザに、東西のまちへのつながりを意識できる視認性と開放感のある空間を整備する。

・セントラルプラザに、線路や改札口が見える空間を整備する。

人が佇める空間をつくる～賑わいやアクティビティをつなぐ～

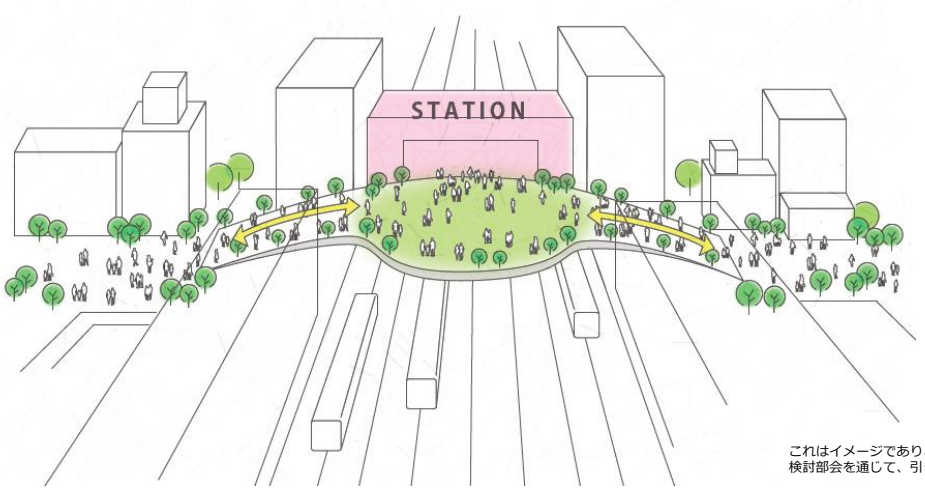
○人の賑わいや活動をつなぐ空間

・ターミナル軸等の公共的空間は、人が佇める空間として整備し、その周りには賑わいのある施設を配置する。

・ターミナル軸等の公共的空間の結節点に、休憩や待ち合わせに活用できる空間、まちや駅の情報を得ることができる空間を整備する。

○まちや駅を視線でつなぐ空間

・ターミナル軸やターミナルシャフト等の公共的空間は、まちや駅が見える空間として整備する。



これはイメージであり、詳細については、今後、デザイン検討部会を通じて、引き続き検討・調整を行う。

●周辺のまちと駅施設がみえる広場空間のイメージ

連携

様々な活動が可能なフレキシブルな広場をつくる～いつでも誰でも使える～

○可変的な広場空間

・セントラルプラザは、人が佇み・憩い・情報を発信するなど、様々な活動が可能となる空間として整備する。

公共的空間と連携した安全・安心の空間をつくる～安全に安心して使える～

○誰にも優しい空間

・公共的空間と民間建物が一体となって、ユニバーサルデザインに対応した空間を整備する。

○非常時に対応した空間

・公共的空間と民間建物が連携し、災害等の非常時にも対応できる空間・設備等を整備する。

駅やまちの存在感が表出するエントランス空間をつくる～まちや駅が見える～

○駅やまちの存在感がわかる設え

・セントラルプラザ周辺のエントランスは、駅やまちを認識できる空間として整備する。

挑戦

新しい新宿の象徴となる広場をつくる～新たな拠点を生む・新たな活動と価値を生む～

○駅とまちの一体性の象徴となる空間

・都市機能の集積と鉄道が織りなすダイナミックな景観を歩いて楽しめる空間を整備する。

・常に活動が生まれる拠点として、天候や時間に左右されない空間を整備する。

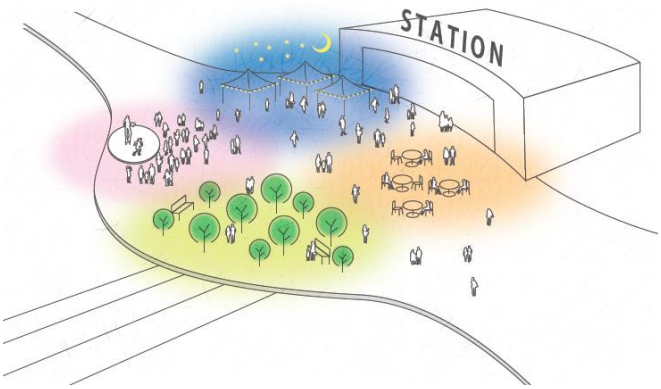
・情報発信の新たな拠点として、セントラルプラザと周辺の建物又は鉄道との見る・見られるの関係を重視した空間を整備する。

○人の活動が見える空間

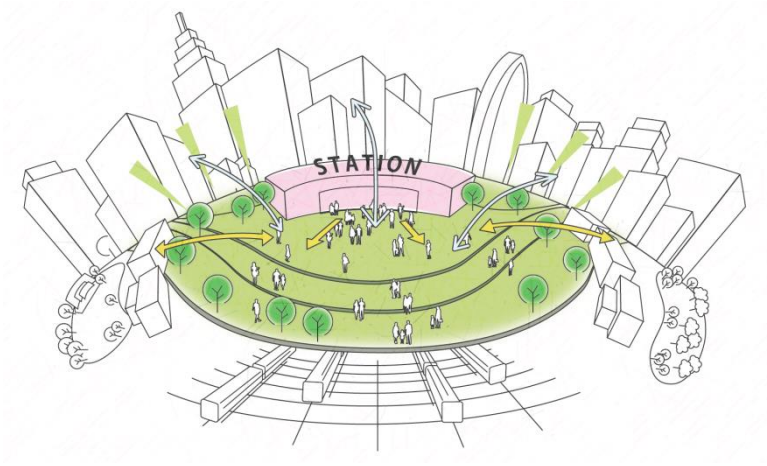
・セントラルプラザから、人の動きが見え、活動が感じられるような歩行者動線・滞留空間を周辺の建物に整備する。

○新たな活動と価値を生む場

・国内外の人、モノ、情報が集まり、交わり、刺激し合える「うつわ（器）」としての空間をデザインする。



●可変的な広場空間のイメージ



●駅とまちの一体性の象徴となる空間のイメージ

これはイメージであり、詳細については、今後、デザイン検討部会を通じて、引き続き検討・調整を行う。

【西ゾーン】

■デザインポリシー

駅前広場と建物が一体となった「立体都市広場」をつくる

■現状

○西口駅前広場は、新宿の地形的な特性を利用し、地上・地下の立体的な駅前広場となっている。

○西ゾーンは、超高層オフィスビル街の玄関口となっている。

○新宿中央公園と駅前広場を結ぶ４号街路が都市の軸線を形成している。

■「交流・連携・挑戦の生まれる場所」となる空間のつくり方

交流

東西骨格軸とまちをつなぐ空間をつくる～まちと駅をつなぐ～

○線路上空の東西デッキとセントラルプラザへのつながりがわかる設え

・新宿テラス（低層）に、駅前広場から東西デッキとセントラルプラザを認識できる開放的な空間と特徴的な設えを整備する。

人の佇める空間をつくる～賑わいやアクティビティをつなぐ～

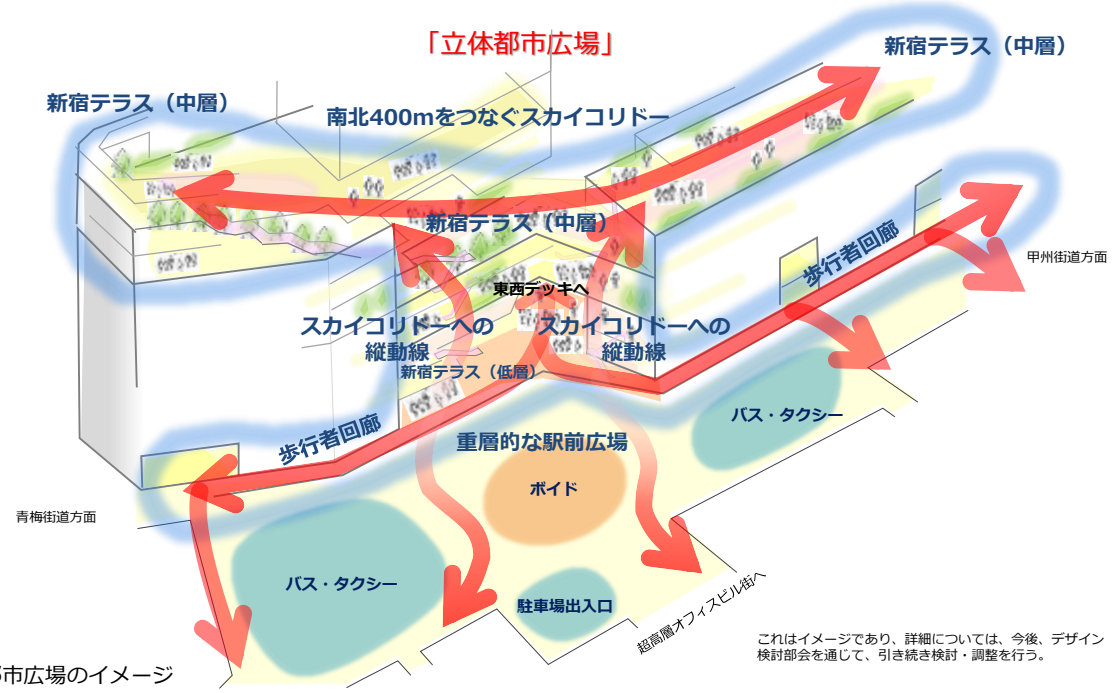
○人の賑わいや活動をつなぐ空間

・ターミナル軸等の公共的空間は、人が佇める空間として整備し、その周りには賑わいのある施設を配置する。

・ターミナル軸等の公共的空間の結節点に、休憩や待ち合わせに活用できる空間、まちや駅の情報を得ることができる空間を整備する。

○まちや駅を視線でつなぐ空間

・ターミナル軸やターミナルシャフト等の公共的空間は、まちや駅が見える空間として整備する。



これはイメージであり、詳細については、今後、デザイン検討部会を通じて、引き続き検討・調整を行う。

●立体都市広場のイメージ

連携

歩行者中心の立体的な駅前広場と一体的な空間をつくる～一体的に使える～

○「ボイド（大穴）※」と「立体広場」を継承した広場空間

・現在の駅前広場の持つ空間特性や考え方を継承し、地下に自然光を取り入れ、地上と地下のつながりやまちを感じられるボイド（大穴）を駅前広場の中心に整備する。

・駅前広場に、自然を感じられるようみどり等を立体的に配置する。

○人々の流れを整え、人々が憩う空間

・新宿テラス（低層）は、駅前広場に面した地下・地上・デッキ階に主要な歩行者動線を確保するとともに、人々が佇み、まちを感じ、賑わいを創出する開放性のある空間として整備する。

○境界を意識させない空間

・建物内に駅前広場と一体となった賑わいや、みどり等による憩いを生む新たな公共的空間を整備する。

○新宿を楽しむことができる新宿テラス

・建物の中層階に、賑わいと安らぎを生み、新宿を眺望でき、駅前広場やセントラルプラザの活動が見える新宿テラス（中層）を整備する。

公共的空間と連携した安全・安心の空間をつくる～安全に安心して使える～

○誰にも優しい空間

・公共的空間と民間建物が一体となって、ユニバーサルデザインに対応した空間を整備する。

○非常時に対応した空間

・公共的空間と民間建物が連携し、災害等の非常時にも対応できる空間・設備等を整備する。

駅の存在感が表出するエントランス空間をつくる～まちや駅が見える～

○駅の存在感がわかる設え

・エントランスは、地上・地下の駅前広場から鉄道や改札口等の施設が見えるなど、駅を認識できる空間として整備する。

・エントランスは、周辺のまちから人の動きや活動を感じられる空間として整備する。

挑戦

南北をつなぐスカイコリドーをつくる～新たな空間を生む・新たな活動と価値を生む～

○南北４００mをつなぐスカイコリドー及びデッキ階の歩行者回廊

・駅前広場の歩行者空間を立体的に拡大するとともに、新宿テラス（中層）をつなぎ、様々な活動が展開され、まちからも見えるスカイコリドーを整備する。

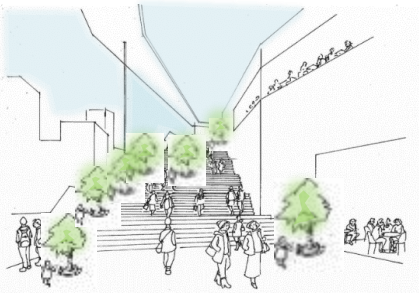
・デッキ階に駅とまちとの回遊性を高める歩行者回廊を整備する。

○地下から地上へ人々を引き上げるダイナミックな縦動線（グランドシャフト）

・重層的な駅前広場・新宿テラス（低層）・スカイコリドーをつなぎ、周辺のまちからの視認性と存在感のある縦動線（グランドシャフト）を整備する。

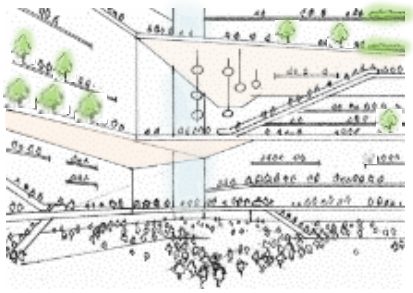
○新たな活動と価値を生む場

・国内外の人、モノ、情報が集まり、交わり、刺激し合える「うつわ（器）」として空間をデザインする。



●スカイコリドーのイメージ（一部）

●新宿テラス（中層）のイメージ（一部）



●ダイナミックな縦動線のイメージ（一部）

※ボイド ：地下空間に光を取り込み、開放感を生み出す、グランドターミナルの空間特性の一つとなる吹き抜け空間。（新宿の拠点再整備方針P17に記載）

これはイメージであり、詳細については、今後、デザイン検討部会を通じて、引き続き検討・調整を行う。

【東ゾーン】

■デザインポリシー

駅とまちを融合させる「歩行者回遊広場」をつくる

■現状

○東口駅前広場は、昼も夜も人で賑わい、中層規模の商業施設で囲われた駅前広場となっている。

○東ゾーンは、賑わいと回遊性がある商業集積地の玄関口となっている。

○駅前広場につながる通りの沿道には、商業施設が集積している。

○新宿通りをはじめ、各通りの歩行者優先化に向けた取組が行われている。

■「交流・連携・挑戦の生まれる場所」となる空間のつくり方

交流

まちの通りと駅をつなぐ広場をつくる～まちと駅をつなぐ～

○まちとのつながりを意識させる広場空間

・駅や東西骨格軸から賑わいあるまちの通りにつながる広場空間を整備する。

・広場空間は、駅からまちの通り、まちの通りから駅へと自然と誘導し、まちと駅の回遊性を向上させる空間として整備する。

人の佇める空間をつくる～賑わいやアクティビティをつなぐ～

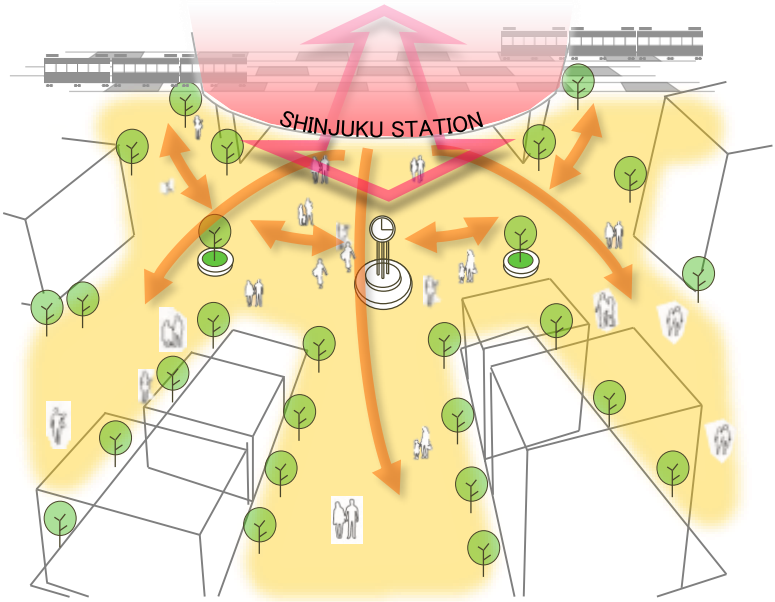
○人の賑わいや活動をつなぐ空間

・ターミナル軸等の公共的空間は、人が佇める空間として整備し、その周りには賑わいのある施設を配置する。

・ターミナル軸等の公共的空間の結節点に、休憩や待ち合わせに活用できる空間、まちや駅の情報を得ることができる空間を整備する。

○まちや駅を視線でつなぐ空間

・ターミナル軸やターミナルシャフト等の公共的空間は、まちや駅が見える空間として整備する。



●まちとつながりを意識させる広場空間のイメージ

これはイメージであり、詳細については、今後、デザイン検討部会を通じて、引き続き検討・調整を行う。

連携

まちに開かれた空間をつくる～一体的に使える～

○まちに開かれた駅の設え

・新宿テラス（低層）は、地下・地上・デッキ階に面的にまちに開かれ、駅前広場と駅が一体となった開放的な空間として整備する。

・新宿テラス（低層）は、新宿駅東口地区の特性を踏まえ、活気・賑わい・情報発信等を意識した空間として整備する。

○境界を意識させない空間

・建物内に駅前広場と一体となった賑わいや憩いを生む新たな公共的空間を整備する。

公共的空間と連携した安全・安心の空間をつくる～安全に安心して使える～

○誰にも優しい空間

・公共的空間と民間建物が一体となって、ユニバーサルデザインに対応した空間を整備する。

○非常時に対応した空間

・公共的空間と民間建物が連携し、災害等の非常時にも対応できる空間・設備等を整備する。

駅の存在感が表出するエントランス空間をつくる～まちや駅が見える～

○駅の存在感がわかる設え

・エントランスは、駅前広場から駅を認識できる空間として整備する。

・エントランスは、周辺のまちから人の動きや活動を感じられる空間として整備する。

挑戦

まちと駅が重層的につながる空間をつくる～新たな空間を生む・新たな活動と価値を生む～

○地下から地上へ人々を引き上げるダイナミックな縦動線（グランドシャフト）

・まちに広がる地上と地下の歩行者ネットワークをつなぎ、新たな賑わいと憩いのある空間と周辺のまちからの視認性と存在感のある縦動線（グランドシャフト）を整備する。

・東西自由通路及び駅前広場からつながる地下の公共的空間は、自然光を取り入れ、地上と地下のつながりやまちへの視認性と開放感のある空間として整備する。

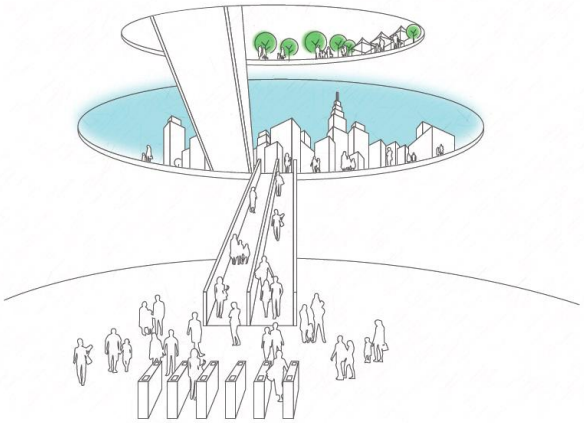
○新宿の賑わいが感じられる空間

・所々に、駅や駅ビルからまちやセントラルプラザなどの人の賑わいが見える空間を整備する。

○新たな活動と価値を生む場

・国内外の人、モノ、情報が集まり、交わり、刺激し合える「うつわ（器）」としての空間をデザインする。

●まちに開かれた駅の設えのイメージ



●地下から地上へ人々を引き上げるダイナミックな縦動線のイメージ

これはイメージであり、詳細については、今後、デザイン検討部会を通じて、引き続き検討・調整を行う。

【南ゾーン】

■デザインポリシー

新たな魅力を発信する「空中都市広場」をつくる

■現状

○サザンテラスは、開放性のある憩いの空間となっている。
○甲州街道は自動車交通を担う幹線道路であるとともに、新宿駅やバスタ新宿の利用者、東西のまちを移動する歩行者など、多くの人が行き来している。

■「交流・連携・挑戦の生まれる場所」となる空間のつくり方

交流

南北のまちをつなぐ空間をつくる～まちとまちをつなぐ～

○南北のまちをつなぐ重層的な歩行者空間

・甲州街道の南北をつなぎ、まちの回遊性を向上させる歩行者ネットワークを整備する。
・甲州街道の地下及び沿道に、休憩や待ち合わせに活用できるとともに、まちや駅の情報を得ることができる地下広場を整備する。

○既存のターミナル軸等と連続した歩行者空間

・甲州街道やサザンテラス、バスタ新宿の既存のターミナル軸と連続し、まちの回遊性を向上させる歩行者空間を整備する。

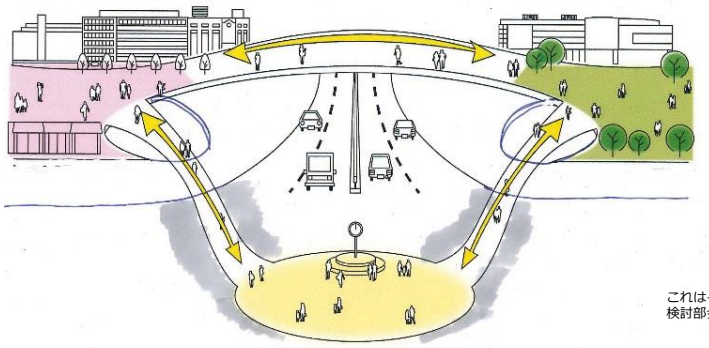
人が佇める空間をつくる～賑わいやアクティビティをつなぐ～

○人の賑わいや活動をつなぐ空間

・ターミナル軸等の公共的空間は、人が佇める空間として整備し、その周りには賑わいのある施設を配置する。
・ターミナル軸等の公共的空間の結節点に、休憩や待ち合わせに活用できる空間、まちや駅の情報を得ることができる空間を整備する。

○まちや駅を視線でつなぐ空間

・ターミナル軸やターミナルシャフト等の公共的空間は、まちや駅が見える空間として整備する。



これはイメージであり、詳細については、今後、デザイン検討部会を通じて、引き続き検討・調整を行う。

●南北のまちをつなぐ重層的な歩行者空間のイメージ

連携

都市の魅力を発信し、人々が集う新宿テラスをつくる～いつでも誰でも使える～

○新たな発見・体験の場となる広場

・建物の高層階・中層階に、東京や新宿の魅力を発信し続けることで、常に誰もが新しい発見や体験のできる新宿テラスを整備する。

・新宿テラス（高層）は、遠方から視認できる位置に、開放性のある空間として整備する。

・新宿テラス（中層）は、甲州街道やサザンテラスから人の動きや様々な活動が感じられる空間として整備する。

甲州街道やサザンテラスに開かれた空間をつくる～一体的に使える～

○既存の広場や歩行者空間の特性と調和した空間

・建物内に甲州街道に面して、賑わいを連続させる開放感のある公共的空間を整備する。

・建物内にサザンテラスに面して、憩いを連続させる開放感のある公共的空間を整備する。

公共的空間と連携した安全・安心の空間をつくる～安全に安心して使える～

○誰にも優しい空間

・公共的空間と民間建物が一体となって、ユニバーサルデザインに対応した空間を整備する。

○非常時に対応した空間

・公共的空間と民間建物が連携し、災害等の非常時にも対応できる空間・設備等を整備する。

駅の存在感が表出するエントランス空間をつくる～まちや駅が見える～

○駅の存在感がわかる設え

・エントランスは、甲州街道から駅を認識できる開放感のある空間として整備する。

・エントランスは、周辺のまちから人の動きや活動を感じられる空間として整備する。

挑戦

新宿の新たな玄関口となるゲート空間をつくる～新たな空間を生む・新たな活動と価値を生む～

○西ゾーンの賑わいと連携したゲート空間

・新宿テラス（中層）は、西ゾーンの新宿テラス（中層）と連携して様々な活動が展開される空間として整備する。

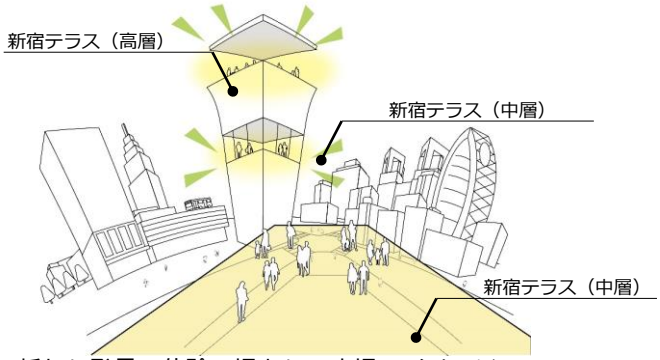
・甲州街道に面した建物は、一体となってグランドターミナルの玄関口にふさわしいまちからの視認性のある空間（ゲート空間）として整備する。

○地下から地上へ人々を引き上げるダイナミックな縦動線（グランドシャフト）

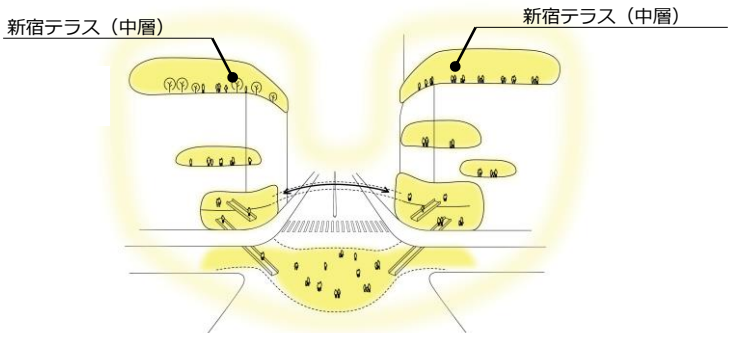
・地下・地上・新宿テラスをつなぎ、周辺のまちからの視認性と存在感のある縦動線（グランドシャフト）を整備する。

○新たな活動と価値を生む場

・国内外の人、モノ、情報が集まり、交わり、刺激し合える「うつわ（器）」としての空間をデザインする。



●新たな発見・体験の場となる広場のイメージ



●西ゾーンの賑わいと連携したゲート空間のイメージ

これはイメージであり、詳細については、今後、デザイン検討部会を通じて、引き続き検討・調整を行う。

【北ゾーン】

■デザインポリシー

多様な人や情報が交わる「文化交流広場」をつくる

■現状

○新宿駅と西武新宿駅の乗換動線がわかりにくい。
○歌舞伎町地区では新宿シネシティ広場周辺を中心にイベント等が行われている。
○靖国通りに面した広場は、人が行き交い、周辺建物のビジョンを楽しむ人が見られる。

■「交流・連携・挑戦の生まれる場所」となる空間のつくり方

交流

駅と駅、まちと駅をつなぐ空間をつくる～駅と駅をつなぐ・まちと駅をつなぐ～

○駅と駅、まちと駅をつなぐ重層的な歩行者空間

・新宿駅東口から西武新宿駅までの地下をつなぎ、まちの回遊性を向上させる地下歩行者通路を整備する。
・新宿駅東口から歌舞伎町地区までを分かりやすくつなぎ、まちの回遊性を向上させる歩行者ネットワークを整備する。

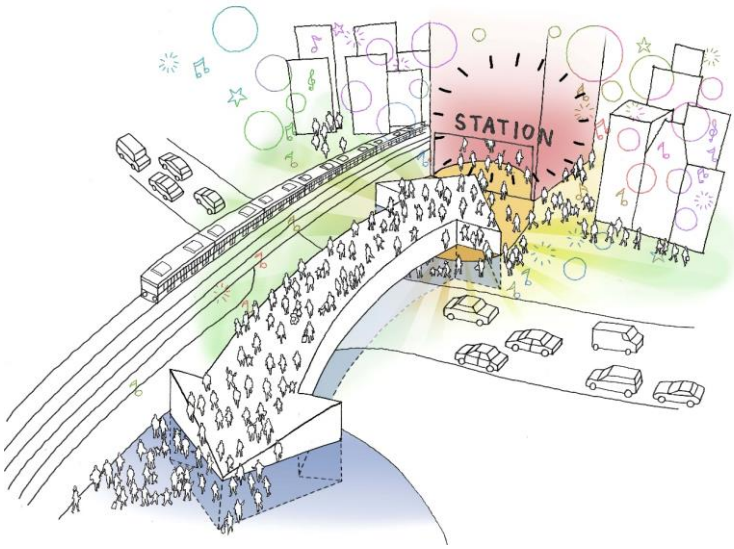
人が佇める空間をつくる～賑わいやアクティビティをつなぐ～

○人の賑わいや活動をつなぐ空間

・ターミナル軸等の公共的空間は、人が佇める空間として整備し、その周りには賑わいのある施設を配置する。
・ターミナル軸等の公共的空間の結節点に、休憩や待ち合わせに活用できる空間、まちや駅の情報を得ることができる空間を整備する。

○まちや駅を視線でつなぐ空間

・ターミナル軸やターミナルシャフト等の公共的空間は、まちや駅が見える空間として整備する。



●駅と駅、駅とまちをつなぐ重層的な歩行者空間のイメージ

これはイメージであり、詳細については、今後、デザイン検討部会を通じて、引き続き検討・調整を行う。

連携

新宿駅東口地区や歌舞伎町地区に開かれた空間をつくる～一体的に使える～

○新宿駅東口地区や歌舞伎町地区の賑わいをつなぐ空間

・新宿テラス（低層）は、新宿駅東口地区や歌舞伎町地区の賑わいが感じられる開放感のある空間として整備する。

・シネシティ広場の賑わいと連携し、歌舞伎町地区の新たな文化発信の場となる広場空間を整備する。

○境界を意識させない空間

・建物内に西武新宿駅前通りや靖国通りに面して、賑わいや憩いを連続させる開放感のある公共的空間を整備する。

公共的空間と連携した安全・安心の空間をつくる～安全に安心して使える～

○誰にも優しい空間

・公共的空間と民間建物が一体となって、ユニバーサルデザインに対応した空間を整備する。

○非常時に対応した空間

・公共的空間と民間建物が連携し、災害等の非常時にも対応できる空間・設備等を整備する。

駅の存在感が表出するエントランス空間をつくる～まちや駅が見える～

○駅の存在感がわかる設え

・エントランスは、西武新宿駅前通りと靖国通りの交差点や周辺の道路から駅を認識できる開放感のある空間として整備する。

・エントランスは、周辺のまちから人の動きや活動を感じられる空間として整備する。

挑戦

グランドターミナルと歌舞伎町の結節点となる空間をつくる

～新たな空間を生む・新たな活動と価値を生む～

○多様な人・モノ・情報が交わる空間

・新宿テラス・靖国通りに面した広場・地下歩行者通路などの歩行者ネットワークは、北ゾーン以外の新宿テラスやセントラルプラザの多様な人の活動・賑わい・情報と連携できる空間として整備する。

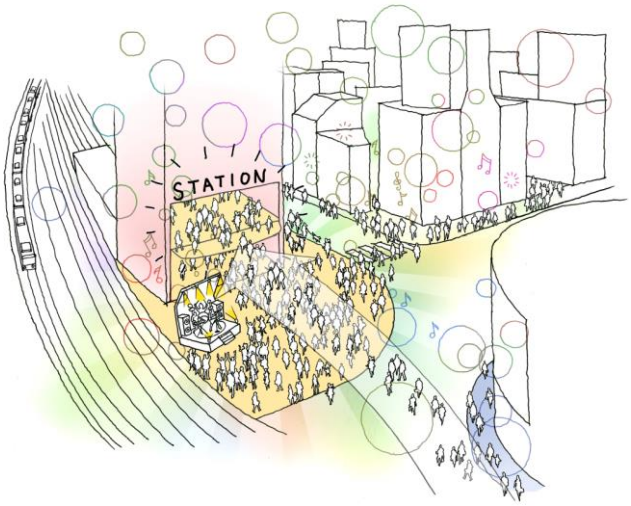
○地下から地上へ人々を引き上げるダイナミックな縦動線（グランドシャフト）

・地下・地上・新宿テラスをつなぎ、周辺のまちからの視認性と存在感のある縦動線（グランドシャフト）を整備する。

○新たな活動と価値を生む場

・国内外の人、モノ、情報が集まり、交わり、刺激し合える「うつわ（器）」としての空間をデザインする。

●新宿駅東口地区や歌舞伎町地区の賑わいをつなぐ空間のイメージ



●多様な人・モノ・情報が交わる空間のイメージ

これはイメージであり、詳細については、今後、デザイン検討部会を通じて、引き続き検討・調整を行う。

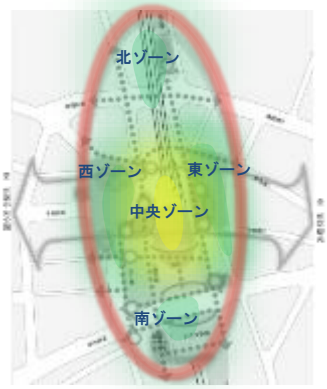
【中央・西・東・南・北ゾーン】

■デザインポリシー

まちの個性を活かした「新しい新宿」をつくる

■現状

○新宿駅周辺の東西南北のまちは、異なる個性を持っている。
○鉄道によって、まちとまちのつながりが弱い。
○新宿中央公園と新宿御苑のみどりの結びつきが弱い。



■新宿の多様な個性を活かした新たな景観

形態・意匠

【近景・中景】

異なる新宿の個性を象徴するデザイン～まちの個性と人の活動を表出させる～

○まちの個性を活かした形態・表層・空間の設え

・歩行者への圧迫感等に配慮するとともに、多様な人の活動や賑わいを感じられる建物をデザインする。
・駅前広場やセントラルプラザ及び周辺の道路からの見え方に配慮し、設備や工作物を建物と一体感のあるデザインとする。
・ボイドや地域の歴史的資源等のまちのレガシーを継承した空間を整備する。

○駅の存在感がわかる設え

・エントランスは、視認性が高く、特徴的なデザインとする。
・ターミナルシャフトは共通のデザインを取り入れるなど、一体感のあるデザインとする。
・公共的空間は、歩行者が自然とまちから駅、駅からまちへ誘導されるよう視認性が高く、統一感のあるデザインとする。
・公共的空間のデザインと統一感のあるわかりやすいサインを整備する。

【遠景】

まちの新しいランドマークとなるデザイン～個性が一体となった拠点としてみせる～

○様々な場所からの見え方に配慮した設え

・建物は、道路や広場、公園、公共交通機関などから認識できるデザインとする。
・建物は、新宿御苑からの見え方に配慮しながらも、まちの個性を活かしたデザインとする。

○新宿の新たな拠点としてみえる建物群

・中央ゾーンを囲む東西南北の４つのゾーンが、それぞれの個性を表出しつつ、既存の個性ある超高層ビル群と一団となって、グランドターミナルを中心とした新たな拠点を象徴する建物群をつくる。
・グランドターミナルにおいては、260m程度までの高さを可能とし、既存の高さ240m程度の超高層ビル群との調和に配慮しながら、なだらかな丘状のスカイラインを形成する。
・４つのゾーンの建物は、それぞれの個性を表出しつつ、グランドターミナル全体として調和を図る。

形態・意匠

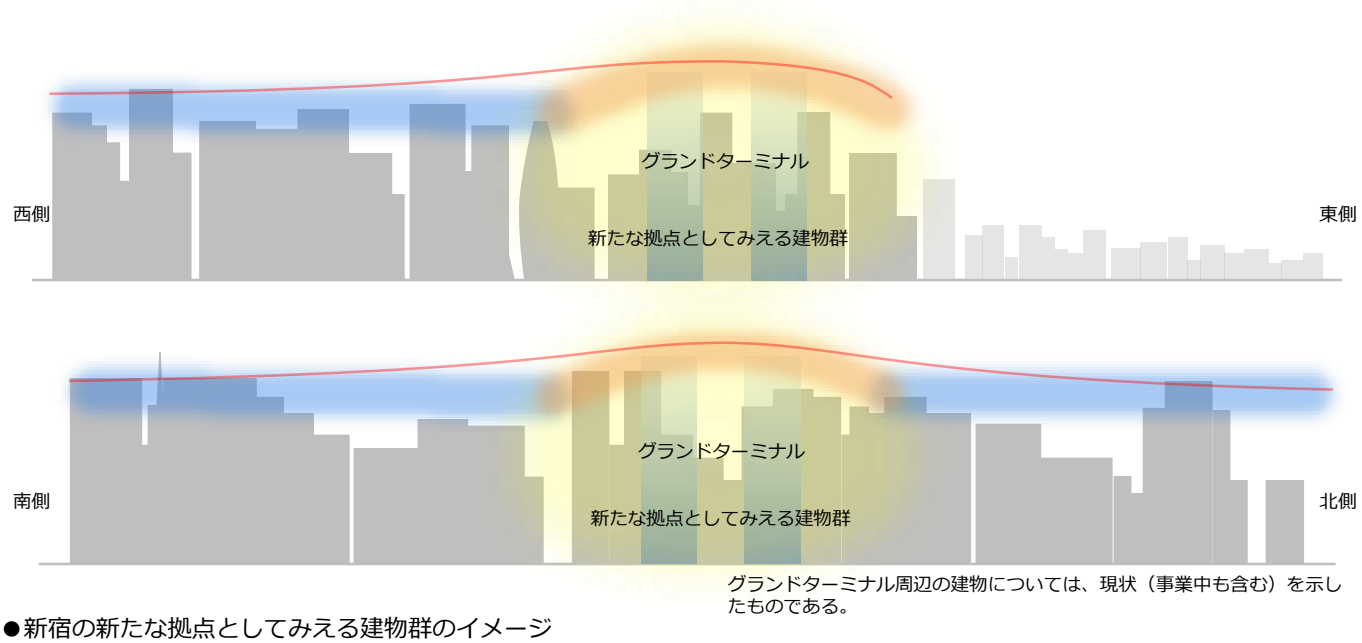
【夜間景観】

新しい夜間景観をつくる光の演出～夜間もまちの個性を演出する～

○夜間もまちの個性や人の活動が表出される設え

・光を効果的に活用し、まちの個性や人の活動が見える新しい夜間景観をつくる。

・建物の高層階や低層階の公共的空間などを活用し、東西南北の４つのゾーンが一体となって、新宿の夜間景観の魅力向上に寄与する光の演出を行う。



●新宿の新たな拠点としてみえる建物群のイメージ

みどり・環境

【象徴のみどり】

まちとまちとのつながりを象徴するみどり～象徴的なみどりをつなぐ～

○東西骨格軸を認識できるみどり

・東西骨格軸上にある駅前広場や道路、公共的空間、建物には、新宿中央公園と新宿御苑のつながりを意識できるみどりを配置する。

【潤いのみどり】

空間を潤す一体的なみどり～一体的なみどりをつくる～

○公共的空間と建物が一体となって潤いが感じられるみどり

・駅前広場や道路、公共的空間、建物の屋上や壁面などに、駅やまちから潤いを感じられるみどりを重層的に配置する。

○建物内外で身近に感じられるみどり

・歩きながら目に見える場所にみどりを配置する。

・賑わいや憩いを演出するみどりを配置する。

・生態系に配慮したみどりや季節を感じさせるみどりを配置する。

【新技術】

都市における新しい環境技術の活用～新しい環境技術をいかす～

○環境負荷低減に貢献する質の高い環境技術の活用

・ヒートアイランド現象などの都市環境に配慮したみどりや設備を設置する。

・新しい技術を積極的に導入し、みどりの配置、建物の環境負荷低減、自然エネルギーなどの活用を行う。

●公共的空間と建物が一体となって潤いが感じられるみどりのイメージ

Ⅷ　段階的なグランドターミナルの再編に向けて

■デザインポリシーの見直し

・デザイン検討部会では、2018年度において、東西骨格軸を形成する中央ゾーン、西ゾーン、東ゾーンを検討し、デザインポリシー2019をとりまとめた。

・2019年度、2020年度において、南ゾーン、北ゾーン、形態・意匠、みどりについて検討し、デザインポリシー2021をとりまとめた。

・今後は、新型コロナ危機を契機とした人の交流の在り方や働き方の変化等を的確にとらえ、更新期を迎えた駅ビルの建替え計画の進捗や周辺のまちづくりの状況に応じて、空間・景観づくりについて検討の深度化を図り、必要に応じてデザインポリシーの見直しを行う。

■デザインポリシーの活用

・デザインポリシーは、新宿の拠点再整備方針の具体化に向け、グランドターミナルの空間・景観のつくり方を示したものである。

・今後、グランドターミナルの再編を契機として、その周辺地区においても、更なるまちづくりや建替えを進める際には、デザインポリシーを参考にすること。

・特に、グランドターミナル内及びその周辺において、東京都が位置付ける都市開発諸制度（再開発等促進区を定める地区計画、特定街区、高度利用地区、総合設計）や都市再生特別地区を活用した開発計画については、デザインポリシーを踏まえた計画となるよう検討すること。

■デザイン検討部会について（2018年5月~）

○位置付け

新宿の拠点再整備検討委員会設置要綱第８条に基づく検討部会

○検討内容

新宿の拠点再整備方針の具体化に向け、空間・景観づくりについての検討

○検討部会の構成

座　長：岸井隆幸（日本大学 理工学部 特任教授）

副座長：中井検裕（東京工業大学 環境・社会理工学院長 教授）

委　員：内藤廣（東京大学 名誉教授）、倉田直道（工学院大学 名誉教授）

東京都（都市整備局）、新宿区（新宿駅周辺整備担当部）、渋谷区（都市整備部）

鉄道事業者（東日本旅客鉄道㈱、小田急電鉄㈱、東京地下鉄㈱、京王電鉄㈱、西武鉄道㈱）

オブザーバー：国土交通省（都市局）

事務局：東京都（都市整備局都市づくり政策部開発企画課）

新宿区（新宿駅周辺整備担当部新宿駅周辺基盤整備担当課、新宿駅周辺まちづくり担当課）